令和５年度　江戸川区立鹿骨小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	自立と貢献	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「学力保障」を果たす学校 ・自立し貢献する児童 ・組織人として共通実践し、各学年での指導責任を果たす教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足いただいている。全国学力学習状況調査や東京ベーシック・ドリル診断シート、学校独自の標準学力調査においても、着実に学力向上が図れている。 ＜課題＞・全体的に学力は向上してきているが、高学年になるほど学力定着の二極化が見られる。　・体力調査では、区の平均を下回る種目が多い。 ・特別支援教育の視点に立った学校運営、学級経営を推進していく必要がある。・統合に向け、地域との連携をさらに深めていく必要がある。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞ ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	年度末に向けた改善策
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の作成 ②各ブロックにおける一部教科担任制の実施 ③標準学力調査、東京ベーシック・ドリル診断シートの実施 ④一人1台端末の利活用の推進 ⑤業者による放課後補習教室「カムバック教室」、全教員による補習「サンライズ教室」の実施 ⑥SP表分析に基づく「電子ドリル」等の効果的な活用	①全国学力調査、都学力向上調査「授業の内容はよく分かりますか」の肯定的評価90%以上 ②全学年で教科担任による授業や合同授業を実施 ③標準学力調査国語・算数の通過率80%、理科の通過率70%、東京ベーシック・ドリル診断シート正答率70%通過率70%以上 ④全学年において1単元の学習の中で、必ず1回以上端末を利活用 ⑤カムバック教室年150回、サンライズ教室年35回以上 ⑥「江戸川っ子studyweek！（家庭学習キャンペーン）」年3回実施、提出率・取組率90%	A	B	①全国学力調査(6年) 肯定的評価80%、都学力向上調査「授業の内容はよく分かりますか」の肯定的評価(4年)92.1%、(5年)86.3%、(6年)91.7% ②低学年で、道徳の交換授業を実施、中・高学年で社会・理科の教科担任授業を実施、そのほか、全学年で音楽、図工、習熟度別算数授業を実施 ③標準学力調査(4月→12月再調査)国語の通過率54.2%→64.5%(全校)、算数の通過率60.7%→75.2%(全校)、理科の通過率(4・5年)38%、東京ベーシック・ドリル診断シート(4月→12月)正答率70%通過率63.1%→73.6%(2～6年) ④全学年において1単元の学習の中で、必ず1回以上端末を利活用した。 ⑤カムバック教室150回実施、サンライズ教室35回以上実施 ⑥「江戸川っ子studyweek！（家庭学習キャンペーン）」3回実施、ドリルパーク(電子ドリル)取組率90%以上	B	・全体的に学力は向上していると感じるが、二極化が課題である。誰一人取り残さない より引き続きお願いしたい。 ・サンライズ教室などの実施が参加メンバーの固定化などにより勉強に対する苦手意識や一種のあきらめなどにつながっていないかが懸念される。補習のやり方など変化を加えていく必要があるのではないか。 二極化の原因を細やかに分析し、「学習カルテ」を作成したり、カリキュラムを管理する部署を立ち上げたりすることで、学び方を支える仕組みを充実させる必要がある。 ・点数を上げることも大切であるが、学び方を学ぶ、子供が自信を付けられるような観点を大切にした指導を行ってほしい。 ・学実に基づく授業改善、課題解決の対策をもっと具体的に示し、実施してほしい。	①一部目標値を下回る結果となった。校内研究教科である理科・生活科の意識調査では、各項目において二極化が顕著に表れる結果となった。単元ワークテストや学力調査の問題別正答率・個人別正答率を細やかに分析・整理し、学習カルテを作成して学力課題を絞り、学習のねらいや手立てを明確にした指導を行っていく。 ②全学年で実施し、児童理解や教材研究を より深めることができた。一方で、理科・社会の教科担任については、単学級ブロックで実施していたため、2学年分の教材研究をしなければならず、教材研究や準備の負担を感じる教員もいた。教材資料の整理・データ化、観察実験アシスタントの活用を進め、負担感を軽減していく。 ③標準学力調査再調査では、向上は見られたものの、目標値を下回った。一方で、東京ベーシック・ドリル診断シートでは、目標値を上回った。電子ドリル（ドリルパーク）も活用し、朝学習や家庭学習で繰り返し適用問題に取り組ん、間題慣れした結果だと考える。標準学力調査についても、年度内に次年度用プレ調査を実施し、適用問題に繰り返し取組む。 ④学習用タブレット端末の利活用が進んだ一方で、使用することが目的となっている面も否めない。研修を継続し、より学力向上につながらも利活用を推進していく。 ⑤SP表に基づき、児童一人一人の課題に合わせた指導を行うことで、東京ベーシック・ドリル診断シートの正答率が上がった。今後も、学習のつまづきを明らかにし、ポイントを絞った指導を行っていく。 ⑥学習習慣の定着につながりつつあるが、学力定着までは今一歩である。各学年の宿題内容の精選を行い、電子ドリル（漢字・計算）・音読を基本とした統一した指導を行う。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①朝読書・昼読書の時間の設定 ②学校図書館司書と連携した探究的な学習の実施 ③評価の実施 ④学校図書館の環境整備や興味・関心を高める取組の推進	①年間延べ23時間以上 ②各学級年1回以上、「江戸川っ子読書科コンクール」に全員参加 ③学校関係者評価年2回、自校及び保護者評価年1回 ④学校図書館司書との連絡会議年2回、館内案内板・分類板の刷新、年3回の読書月間におけるおすすめ図書紹介	B	B	①全学級で、23時間以上実施 ②全学級で実施 ③学校関係者評価年2回実施、自校及び保護者評価年1回実施 ④学校図書館司書との連絡会議を1回実施、読書月間を3回実施、館内案内板・分類板を作成	B	・中央図書館との連携をより進めてほしい。 ・学校の教育活動に関するアンケート項目「本に親しむ習慣があるか」の問いに、「思わない・あまり思わない」が48%にのぼっているのは今後の課題である。 ・本は、人のくを豊かにしたり、知りたいことを調べたりして知識が豊かになるので、子供のころに読書が苦手になることのないように取り組んでほしい。 ・探究的な学習は、きちんと実施できているのだろうか。読書科、総合的な学習の時間を中心に、しっかりと取り組んでほしい。	・学校図書館司書と連携し、引き続き学校図書館の環境整備を進めていく。 ・総合を見据え、松本小学校の学校図書館用当も連携しながら、計画的な本の購入や廃棄、入替を進めていく。 ・中央図書館からの団体貸出を積極的に実施し、より多くの本に親しめる環境を整える。 ・読書科コンクールへの取り組みカや指導の重点を校内で共有し、より効果的な指導を進める。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞	①毎朝マラソンの実施、マラソン週間の設定 ②鹿骨タイム(休み時間を活用した運動遊び)の実施 ③スポーツ推進委員等の外部講師を招いた運動機会の確保 ④夏季水泳教室、校内水泳大会の実施 ⑤食育・健康教育の実施	①毎日実施、マラソン週間年3回の設定 ②月1回以上、体力調査項目の50%以上で区平均以上 ③各学年1回以上 ④夏季水泳教室12回実施、50mを泳げる高学年児童70% ⑤学校栄養士や養護教諭と連携した授業を1年、2年、3年、6年で実施。フッ化物洗口33回実施	A	B	①毎朝マラソン毎日実施、マラソン週間を3回実施済 ②鹿骨タイムを月1回実施 ③全学年対象で、スポーツ推進委員を招いた体力テスト対策授業を実施。スポーツ推進委員と共に計画を実施。 ④夏季水泳教室5回実施。校内水泳大会実施。50mを泳げる高学年児童16.4% ⑤学校栄養士や養護教諭と連携した授業を1年、2年、3年、6年で実施。フッ化物洗口33回実施	B	・目明の数値がよい結果に結び付いていると感じる。引き続き、課題へのアプローチなどをお願いしたい。 ・体力向上は以前からの課題である。具体的な目標設定をするなど、今後も体力向上に努めてほしい。 ・マラソン等のよい取組はこれからも継続してほしい。 ・体力は学びの基盤をつくる大切なものであるので、子供たちも教職員も改めてやる意味や意義を理解し、取り組んでほしい。	①②③体力調査では、55%の項目で区平均以上となった。学年ごとに課題は異なるが、全般的に20mシャトルランと50m走が課題である。結果を分析し、各学年の課題を明確にして通常の体育の授業で引き続き向上を図るとともに、通年でなおとび等に取り組むことで、持久力・解発力等の向上につなげていく。 ④水泳は、気候条件もあり、十分な指導時期を確保することが難しかった。来年度は、目標設定を含め再検討し、児童の実態に即した指導と評価を行っていく。 ⑤フッ化物洗口の取組が定着し、スムーズに取り組めている。来年度以降も継続する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①高齢の方や障害のある方、外国の方との交流活動 ②副籍交流の推進 ③スマイル教室(エンカレッジルーム)、教育相談室の環境整備 ④不登校児童や配慮が必要な児童への支援の充実	①各学年年1回以上 ②直接交流または間接交流を年2回以上 ③環境整備日年3回以上、活動や相談がしやすい、落ち着いた明るい空間づくり ④スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士、巡回教員、特別支援教育専門員等との情報共有やミニ研修の場を月1回以上設定	B	B	①鹿本学園教諭による出前授業、ゴールボール体験、「なごみの家」との連携交流、イングリッシュキャンプ(外国の方との交流)を実施 ②間接交流を毎月実施 ③夏季休業中に環境整備を実施。スマイルルーム(エンカレッジルーム)を移動し、安全で広いスペースを確保。 ④スクールソーシャルワーカーが月1回巡回、月1回の情報共有を実施	B	・地域社会の理解やその課題に気付ける機会となるので、引き続き推進してほしい。 ・特別支援教育校内委員会については、実施回数や内容、PDCAを充実させてほしい。	①②国おいき理解や多様な文化の理解につながる取組を実施することができた。来年度は、周年や開校があることを受け、地域と関する学習活動や、障がい者・地域の発展や産業等に携わる方々との交流)を中心に進めることで、共生社会の実現に向けた教育を推進していく。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士、巡回教員、特別支援教育専門員等のそれぞれの役割を明確にし、より組織的な対応や環境整備を進めていく。また、民生児童委員やはあとポート(児童相談所)との連携を通して、学校サポートチームの役割を強化する。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	①江戸川区子どもの権利条例の理解 ②誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」の基づく確実な対応 ③「hyper-QU」の実施 ④情報共有や取組状況を確認する機会を確保 ⑤一人1台端末を活用した教育相談、「学校生活アンケート」の実施	①権利条例や命に関する授業を年3回以上 ②生活指導報告会を週1回実施 ③「hyper-QU」年1回、結果に基づくケース会議の実施 ④月1回以上の連絡会実施、3・5年生のスクールカウンセラーによる全員面談 ⑤アンケートツールを活用した相談窓口常設、「学校生活アンケート」年3回以上実施	A	B	①権利条例や命に関する授業をすべての学級で1回実施、道徳授業地区公開講座を実施 ②生活指導報告会を週1回実施 ③「hyper-QU」を実施、全担任が結果分析表を作成 ④月1回以上の連絡会を実施、3・5年生の全員面談実施 学級担当による全員面談を2回実施 ⑤アンケートツールを活用した「いってもそうだんまどぐち」を設置、「学校生活アンケート」3回実施し、結果に基づくいじめ防止対策委員会を開催	B	・学校に足を運んだり、積極的に相談している家庭への対応については特に問題は感じないが、学校と疎遠な保護者、家庭との対応については改善の余地があるのかもしれない。 ・学校の教育活動に関するアンケート項目「保護者と教職員が話し合える機会」について、32%が思わないと回答していることが気になる。学校と家庭の関係づくり、対策が課題である。 ・個別指導と全体指導のバランス、担任の共通理解等、学校全体で取り組んでいってほしい。	①学校アンケートでは、「基本的な生活習慣やあいさつ・言葉遣いがきちんと身に付いていると思いますか。」「友達の良さや頑張りを認め合うなどの思いやりの心が育っていますか。」に おいて、嬉しく変見もいただいた。道徳の授業を中心に、高学年交流や松本小学校との児童間交流等も活性化し、教育活動全体で取り組んでいく。 ②③④⑤定期アンケート・hyperQ-Uの分析等を校内で共有し、生活指導タ会で各学級や児童の変容を報告し合うことで、児童理解や学級改善、要支援児童へのアプローチや見守りの強化ができた。一方で、学校アンケート「子供達の様々な課題や悩み～適切に対応していると思いますか。」「子供達の学習や生活を、家庭や地域との連携を図りながら進めるように努力していると思いますか。」では厳しいご意見をいただいた。来年度は、個人面談の機会を増やす等、校内での共有や対応に偏らせず、家庭との積極的な情報共有・早期対応に努めていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	①授業参観日における評価 ②教育活動の積極的な配信	①年5日以上の学校公開日設定、年5回以上の参観アンケート実施 ②学校ホームページの記事更新週1回以上	A	A	①学校公開を8日実施、参観アンケートを5回実施 ②学校ホームページ週1回以上更新、延<39,039アクセス達成	A	・学校ホームページの更新及びアクセスともに伸びている。引き続き、スピーディかつ積極的な情報公開をお願いしたい。	①学校公開では、延<600名以上の参観があり、参観アンケートでも肯定的なご意見を多く寄せていただけた。来年度も時期弊や学校行事を工夫し、子供達が様々な場面で活躍する姿を参観いただけるように努める。また、統合に向けた取組として、松本小学校にもお知らせを配布する。 ②各学年の取組や学習・生活の様子がより伝わるように、更新頻度の増加を目指す。また、周年、統合に関するページを作成し、積極的に情報発信をしていく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①保護者評価の実施 ②学校関係者評価の実施	①年1回(12月) ②年2回(9月と1月)	B	B	①1回実施 ②2回実施	B	・成果、課題にあるとおり、回収率アップは課題である。アンケート回数を増やし、年に数回実施するのもよいかもしれない。 ・回収率は、学校一の期待度、関心の低さも関係しているかもしれない。今後も、より魅力的な学校づくりを進めていってほしい。	①アンケートツールを活用して実施したが、回収率が低かった。アンケートへ回答したくなるような学校運営を目指す。 ②数値目標の達成状況だけではなく、参考資料の充実させ、成果と課題がより伝わるように改善する。
特色ある教育の展開	「花の寄せ植え活動を始めとした、地域への愛着や誇りを高める取組の充実	①地域の花園やPTAと連携した花の寄せ植え活動やPTA花壇の花植え ②地域の人材や環境資源を生かした教育活動	①花の寄せ植え活動年1回、PTA花壇の花植え年3回 ②各学年年1回以上	B	A	①花の寄せ植え活動実施、PTA花壇の花植え3回実施 ②地域のスーパーマーケット見学(3年)、新中川土手の種植え(3・4年)、学校応援団と連携した小松菜栽培(3年)を実施	A	・活動が地域理解、伝統をつなぐ気持ち、自他の命を大切にする心の教育につながるよう、引き続き地域の特色を生かした教育活動を進めてほしい。 ・統合後も継続していけるようにしてほしい。	①花の寄せ植え活動・PTA花壇の整備は本校の特色ある取組なので、次年度も継続して実施する。 ②来年度は、周年や開校があることを受け、地域の人材や環境を活用した鹿骨小学校らしい取組を進める。
	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	①会議時間の短縮、校務支援システムの活用 ②各種研修・報告会のモジュール実施 ③定時退勤日や学校閉庁日の設定、連絡アプリ「tetoru」の活用	①校務支援システムの活用率100% ②服務事故防止研修を延<1時間以上実施、ICT活用研修を延<1時間以上実施 ③月の時間外勤務時間平均33.4時間(一人当たり)連絡アプリ「tetoru」の登録率99%、登録者利用率100%、各種関やお知らせをデジタル配布	A	A	①校務支援システム活用率100% ②服務事故防止研修を延<1時間以上実施、ICT活用研修を延<1時間以上実施 ③月の時間外勤務時間平均33.4時間(一人当たり)連絡アプリ「tetoru」の登録率99%、登録者利用率100%、各種関やお知らせをデジタル配布	A	・先生方の心身の健康が学校運営のベースである。引き続きICT化などによる効率化を進めてほしい。 ・教職員の負担を軽減し、効率的に校務を進めることで、児童とのコミュニケーションの時間がより確保できるとよいと思う。	①教員アンケート「校務支援システムや教員用タブレット端末等を活用し、効率的に業務ができている。」で半数以上が肯定的評価だった。今後もICTの利活用を推進し、働き方改革を進めていく。 ②教員アンケート「各種研修は、服務事故防止や文書管理への理解が深まることにつながっていますか。」で平均評価3.86点/5点だった。今後も計画的に服務事故防止研修等を実施し、安全安心な学校運営を行っていく。 ③平均時間は目標値は達成した。連絡アプリ「tetoru」の運用も軌道に乗ったので、さらなる利用を進める。